

2021年2月25日
株式会社ロイヤリティ マーケティング

Pontaリサーチ会員3,000人に聞いた

第45回 Ponta消費意識調査 2021年2月発表

節約したい理由「日々の生活費のため」44.6%で最多

～支出の把握方法「口座残高」「クレカの明細」が約5割、「家計簿（手書き・PC）」が約3割～

共通ポイントサービス「Ponta（ポインタ）」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティング（本社：東京都渋谷区、代表取締役社長：長谷川 剛、以下「LM」）は、消費者の意識とポイントの利用意向を把握するため、「第45回 Ponta消費意識調査」を「Pontaリサーチ」にて2021年1月28日（木）～1月30日（土）に実施いたしましたので、ご報告いたします。

<節約志向>

- 消費者の節約志向（P.2）
 - 「節約したい」派は63.7%となり、前回調査より5.8ポイント増加
- 節約したい理由（P.3）
 - 節約したい理由は「日々の生活費のため」が44.6%で最多

■アドホック：月々の収支の把握状況

- 月々の収支の把握状況（P.4）
 - 月々の収支を「把握している」は84.8%
 - 新型コロナウイルスをきっかけに収支の把握を「意識するようになった」は「節約したい」派で45.0%
- 支出の把握方法（P.5）
 - 支出の把握方法は「口座の残高」「クレジットカードの明細」が約5割で上位
- 家計簿アプリの他サービス連携状況（P.6）
 - 家計簿アプリに連携しているサービスは「クレジットカード」41.4%、「銀行口座」40.9%。
 - 他サービスを「連携していない」は、男性より女性が16.7ポイント高く56.5%

<ポイントサービスの利用意向>

- ポイントの活用意識と節約志向（P.7）
 - 「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が47.0%と最も高く「節約したい」派では、「いまつかいたい」が43.4%と最も高い
 - 「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

<調査概要>

調査方法：インターネット調査

調査期間：2021年1月28日（木）～1月30日（土）

パネル：「Pontaリサーチ」会員（Ponta会員で「Pontaリサーチ」への会員登録をして頂いている方）

回答者数：3,000人 男性、女性×年代別（20・30・40・50・60代以上）の各10セルで300サンプル

※調査結果は小数点第2位を四捨五入しています。

LMは、「Ponta」の「便利・おトク・楽しい」世界が、いつでもどこでも広がる生活密着型サービスを提供しています。

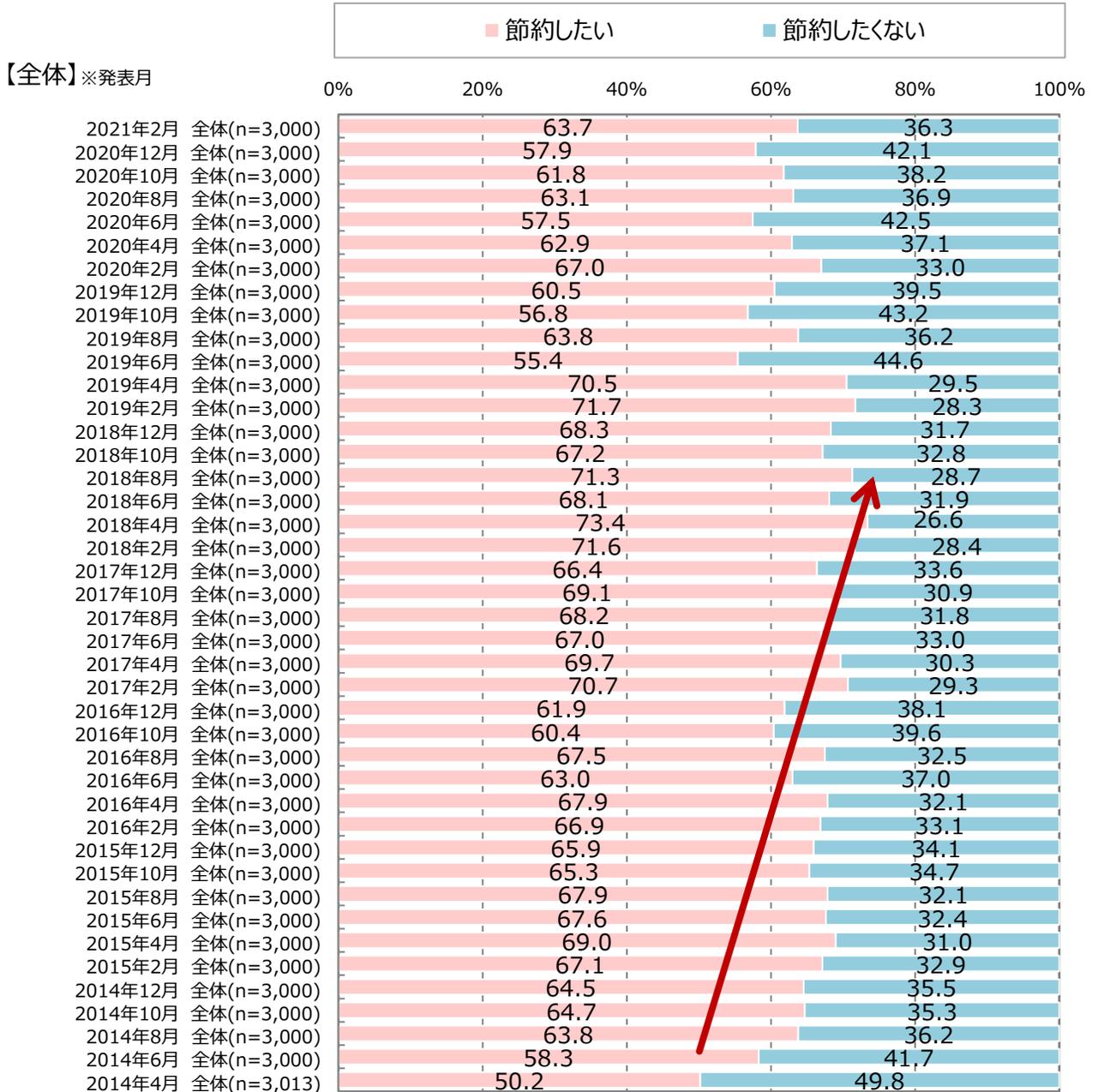
<節約志向>

消費者の節約志向

…「節約したい」派は63.7%となり、前回調査より5.8ポイント増加

- ・ 今月の家計の支出を節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派は、63.7%となった。前回の2020年12月調査の57.9%より、5.8ポイント増加した。

■ 今月の家計の支出を節約したい割合



- ・ 節約したい…節約したい金額が1円以上
- ・ 節約したくない…節約したい金額が0円

【参考】 <設問> あなたは、今月の家計の支出をどのくらい節約したいですか。（半角数字で入力）
 ※とくに節約したいと思わない人は「0」と入力してください。

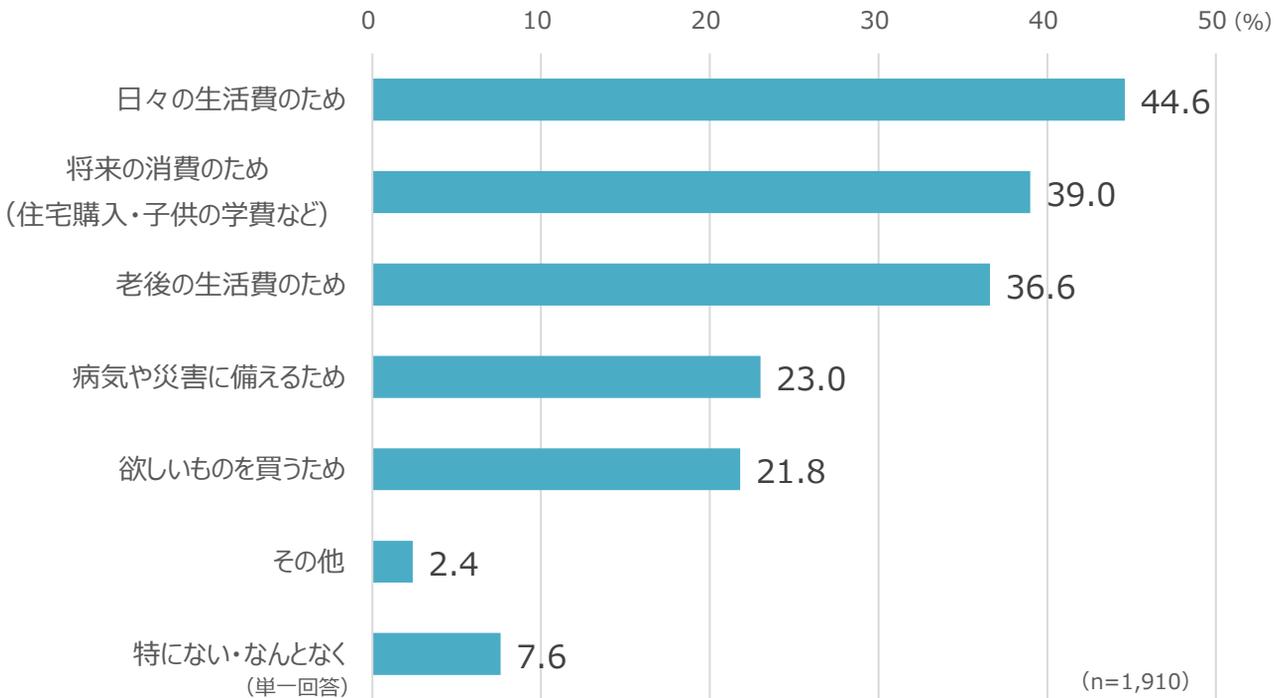
<節約志向>

節約したい理由

… 節約したい理由は「日々の生活費のため」が44.6%で最多

- ・ 今月の家計の支出を節約したい理由は、「日々の生活費のため」が44.6%で最多。次いで「将来の消費のため（住宅購入・子供の学費など）」が39.0%、「老後の生活費のため」36.6%となった。

■ 節約したいと考えている方にお伺いします。節約したい理由を教えてください。（いくつでも）



<消費者意識>

月々の収支の把握状況

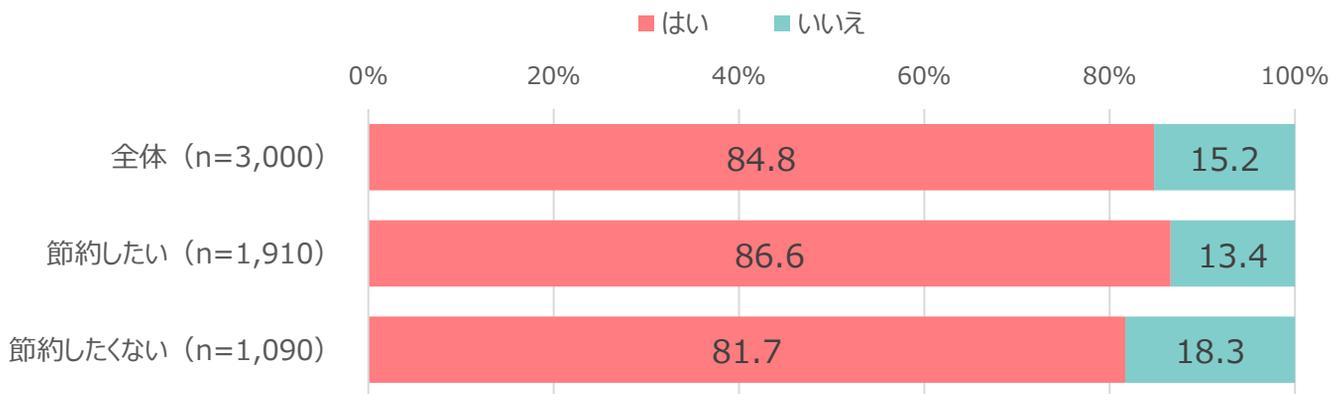
アドホック

… 月々の収支を「把握している」は84.8%

新型コロナをきっかけに収支の把握を「意識するようになった」は「節約したい」派で45.0%

- ・ 自身の月々の収支の把握状況について、「把握している」は全体で84.8%。
節約志向別で「節約したい」派が86.6%、「節約したくない」派が81.7%と、ともに80%を超えた。
- ・ 月々の収支を把握している人に、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、収支の把握に対する意識の変化を伺ったところ、「意識するようになった」は全体で34.7%。
節約志向別では「節約したくない」派（15.5%）よりも「節約したい」派は29.5ポイント高い、45.0%となった。

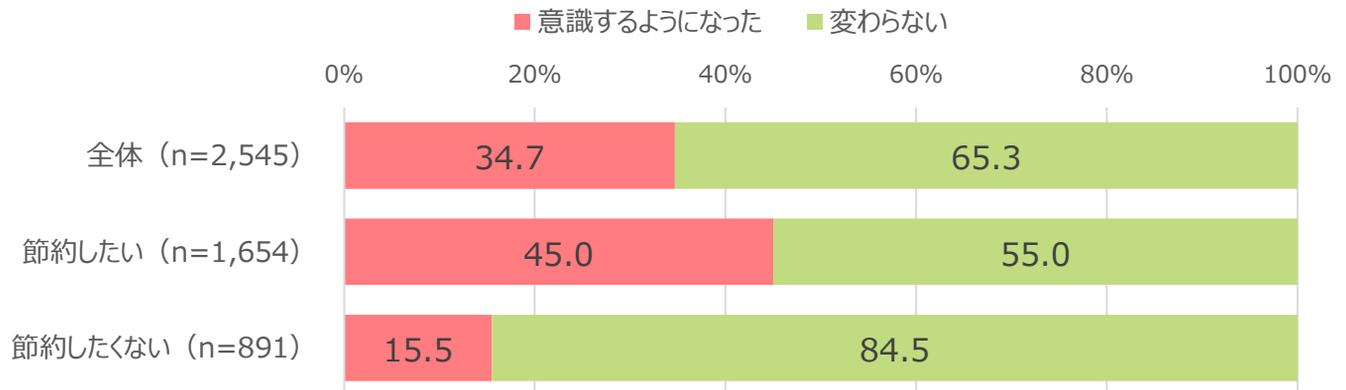
■あなたは、ご自身の月々の収支を把握していますか。（ひとつだけ）



※P.2 今月の家計の節約志向の有無別で集計

■あなたは、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに、収支の把握に対する意識の変化はありましたか。（ひとつだけ）

※本ページ 上段、月々の収支を把握しているかについて、「はい」と回答した方に聴取



※P.2 今月の家計の節約志向の有無別で集計

<消費者意識>

支出の把握方法

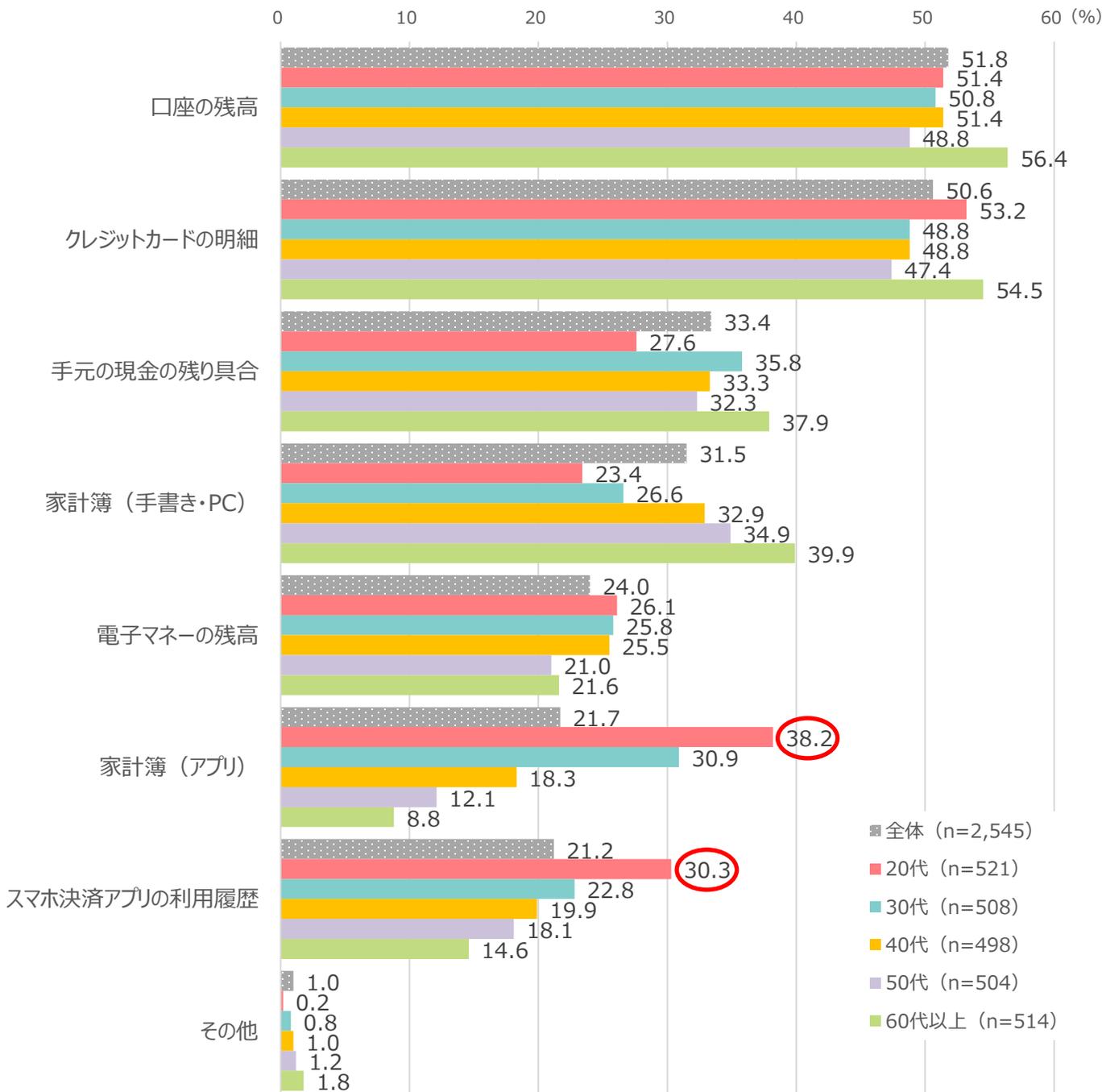
アドホック

… 支出の把握方法は「口座の残高」「クレジットカードの明細」が約5割で上位

- ・ 支出を把握する方法は、全体で「口座の残高」が51.8%、「クレジットカードの明細」が50.6%と上位となった。「手元の現金の残り具合」「家計簿（手書き・PC）」が約3割で続く。
- ・ 「クレジットカードの明細」は、20代と60代以上が他の年代よりも高い結果となった。
- ・ 年代別で、20代は「家計簿（アプリ）」が38.2%、「スマホ決済アプリの利用履歴」が30.3%と他の年代よりも高い結果となった。

■あなたは支出を把握する方法として、何を使っていますか。（いくつでも）

※P.4上段、月々の収支を把握しているかについて、「はい」と回答した方に聴取



<消費者意識>

家計簿アプリの他サービス連携状況

アドホック

… 家計簿アプリに連携しているサービスは「クレジットカード」41.4%、「銀行口座」40.9%。
他サービスを「連携していない」は、男性より女性が16.7ポイント高く56.5%

- ・ 家計簿アプリを利用している人に、他サービスを連携しているか伺ったところ、全体で「クレジットカード」41.4%、「銀行口座」40.9%となった。
- ・ 性別で見ると、男性は「銀行口座」52.1%、「クレジットカード」50.2%と50%を超えた。女性は「連携していない」が最も高く56.5%となった。

■ 家計簿アプリに他サービスを連携していますか。(いくつでも)

※P.5、支出を把握する方法について、「家計簿(アプリ)」と回答した方に聴取



<ポイントサービスの利用意向>

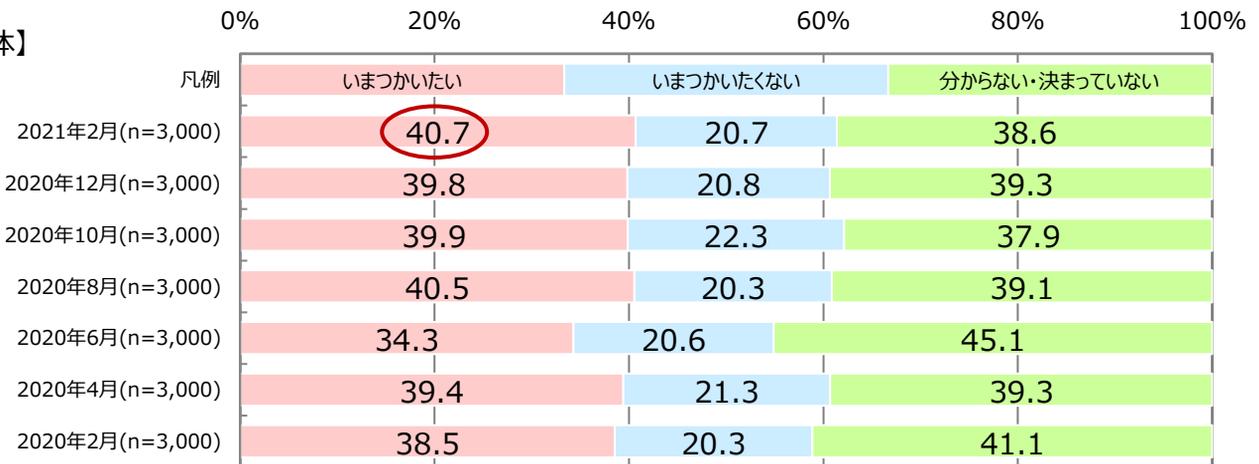
ポイントの活用意識と節約志向

…「節約したくない」派では、「分からない・決まっていない」が47.0%と最も高く
「節約したい」派では、「いまつかいたい」が43.4%と最も高い
「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える

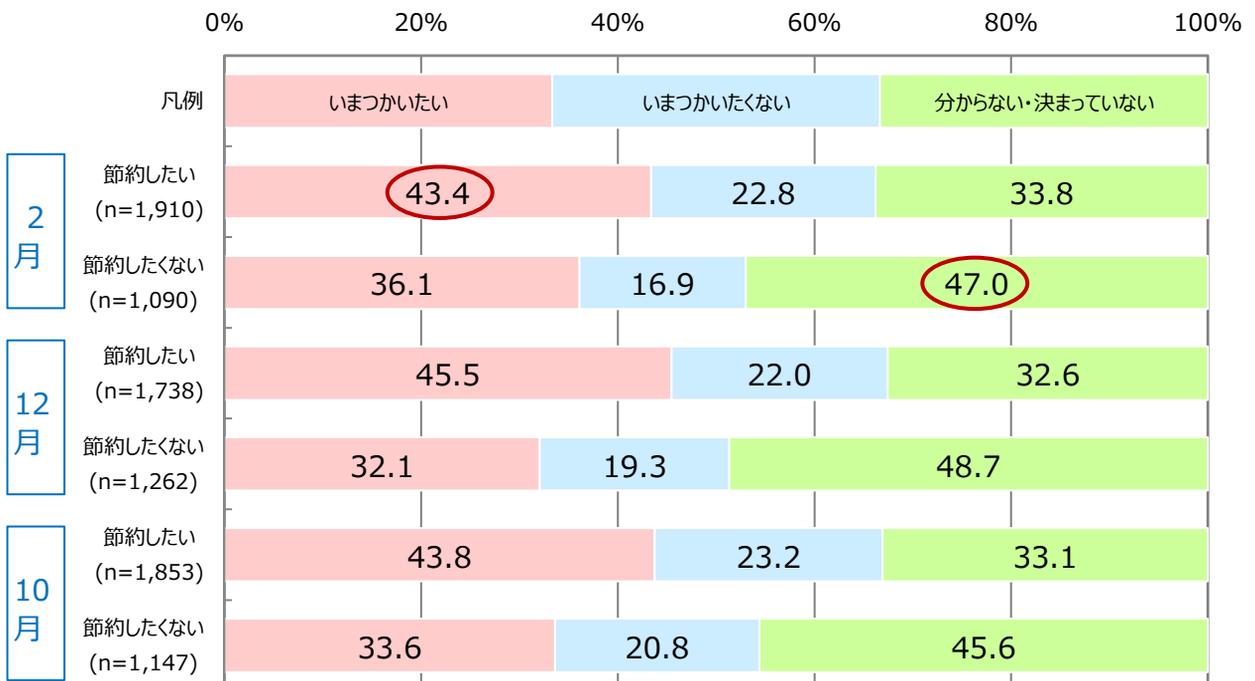
- ・いまPontaポイントをつかいたいかについて、「いまつかいたい」が、全体で最も高く、40.7%となった。
- ・節約志向の有無別でみると、「節約したくない」派では「分からない・決まっていない」が47.0%、「節約したい」派では「いまつかいたい」が43.4%と最も高かった。
「節約したい」派に高いポイント活用意識が伺える。

■あなたはいまPontaポイントをつかいたいですか。(単一回答)

【全体】



【節約志向の有無別】 (2020年10月～2021年2月調査)



【参考】「Pontaリサーチ」コンサルティング・リサーチチーム 見解

— 「節約したい」派は、前回調査より5.8ポイント増え、63.7%
節約したい理由は「日々の生活費のため」が44.6%で最多

Ponta消費意識調査では、毎回消費者の節約志向について調査を行っています。今月（2021年2月）の家計の支出で節約したい金額に1円以上を回答した「節約したい」派は、**63.7%**でした。前回の2020年12月調査（57.9%）より、5.8ポイント増加しています。「節約したい」派は60%前後を推移しており、引き続き、高い節約志向がうかがえます。

また、節約したい理由は、「**日々の生活費のため**」が**44.6%**で最多。次いで「将来の消費のため」が39.0%、「老後の生活費のため」が36.6%となりました。

— 新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、収支の把握を「意識するようになった」は、「節約したい」派で45.0%

高い節約志向が続く中、貯金において、まずは家計管理が基本といわれていることから、本調査では消費者の「収支の把握」について聴取しました。自身の月々の収支を把握しているかについて、「はい」と答えた方は**全体で84.8%**となりました。節約志向別では「節約したい」派は86.6%、「節約したくない」派は81.7%となり、ともに80%を超えました。節約志向の有無に関わらず、収支を把握している様子が見えます。

収支を把握している方に、新型コロナウイルスの感染拡大をきっかけに、収支の把握に対する意識の変化があったかを聞いたところ、全体で「意識するようになった」は34.7%、「変わらない（新型コロナウイルス感染拡大前から意識している）」は65.3%となりました。節約志向別で「意識するようになった」を比較すると、「節約したい」派は、「節約したくない」派（**15.5%**）より、**29.5ポイント高く、45.0%**でした。新型コロナウイルスの感染拡大は、節約志向のある人の収支に対する意識に変化をもたらした様子が見えます。

— 支出の把握方法、「口座の残高」「クレジットカードの明細」が約5割、「家計簿（手書き・PC）」が約3割

続いて、収支を把握している方に、支出の把握方法として何を利用しているかを聞いたところ、最も多かったのは「**口座の残高**」で**51.8%**、次いで「**クレジットカードの明細**」**50.6%**となり、ともに約50%となりました。続いて「**手元の現金の残り具合**」が**33.4%**、「**家計簿（手書き・PC）**」が**31.5%**とそれぞれ約30%でした。家計簿のように、自身で支出を記録するものよりも、口座の残高やクレジットカードの明細、手元の現金の残り具合といったもので、支出を把握している様子が見えます。年代別では、20代が他の年代と比べ「家計簿（アプリ）」の割合が高く、38.2%でした。次に多かった30代（30.9%）よりも7.3ポイント高くなっています。また、「スマホ決済アプリの利用履歴」が30.3%と、こちらも他の年代よりも高い結果となりました。**若年層で、支出の把握にアプリを活用している傾向**が見られました。

また、家計簿アプリの利用者に、アプリに連携している他サービスを聴取したところ、性別で違いが見られました。「クレジットカード」（全体：41.4%）は男性が50.2%に対して女性が33.6%、「銀行口座」（全体：40.9%）は男性が52.1%に対して女性が30.8%となりました。この他の選択肢においても、男性が女性より高い結果となっています。また、「**連携していない**」は**女性が56.5%**で、**男性（39.8%）よりも16.7ポイント高**くなっています。家計簿アプリでは他サービスと連携すると、自動的に収支のデータを記録できるようになります。男性に、収支の記録を省力化して管理をしている様子が見られました。

<参考：過去のPonta消費意識調査実施時期>

- 第1回調査実施・・・2013年9月4日（水）～9月10日（火）（調査発表 2013年10月2日）
- 第2回調査実施・・・2013年10月30日（水）～11月1日（金）（調査発表 2013年12月10日）
- 第3回調査実施・・・2014年2月13日（木）～2月16日（日）（調査発表 2014年2月26日）
- 第4回調査実施・・・2014年4月11日（金）～4月14日（月）（調査発表 2014年4月28日）
- 第5回調査実施・・・2014年6月6日（金）～6月9日（月）（調査発表 2014年6月26日）
- 第6回調査実施・・・2014年8月1日（金）～8月4日（月）（調査発表 2014年8月26日）
- 第7回調査実施・・・2014年10月9日（木）～10月13日（月・祝）（調査発表 2014年10月31日）
- 第8回調査実施・・・2014年12月4日（木）～12月7日（日）（調査発表 2014年12月25日）
- 第9回調査実施・・・2015年2月5日（木）～2月8日（日）（調査発表 2015年2月27日）
- 第10回調査実施・・・2015年4月9日（木）～4月12日（日）（調査発表 2015年4月30日）
- 第11回調査実施・・・2015年6月1日（月）～6月7日（日）（調査発表 2015年6月30日）
- 第12回調査実施・・・2015年8月14日（金）～8月20日（木）（調査発表 2015年8月31日）
- 第13回調査実施・・・2015年10月1日（木）～10月7日（水）（調査発表 2015年10月30日）
- 第14回調査実施・・・2015年12月2日（水）～12月6日（日）（調査発表 2015年12月28日）
- 第15回調査実施・・・2016年2月3日（水）～2月7日（日）（調査発表 2016年2月26日）
- 第16回調査実施・・・2016年4月4日（月）～4月8日（金）（調査発表 2016年4月28日）
- 第17回調査実施・・・2016年6月2日（木）～6月6日（月）（調査発表 2016年6月29日）
- 第18回調査実施・・・2016年8月3日（水）～8月5日（金）（調査発表 2016年8月26日）
- 第19回調査実施・・・2016年9月30日（金）～10月5日（水）（調査発表 2016年10月25日）
- 第20回調査実施・・・2016年12月2日（金）～12月5日（月）（調査発表 2016年12月26日）
- 第21回調査実施・・・2017年2月2日（木）～2月6日（月）（調査発表 2017年2月27日）
- 第22回調査実施・・・2017年4月5日（水）～4月7日（金）（調査発表 2017年4月27日）
- 第23回調査実施・・・2017年6月2日（金）～6月6日（火）（調査発表 2017年6月29日）
- 第24回調査実施・・・2017年8月3日（木）～8月7日（月）（調査発表 2017年8月31日）
- 第25回調査実施・・・2017年9月29日（金）～10月4日（水）（調査発表 2017年10月31日）
- 第26回調査実施・・・2017年12月1日（金）～12月5日（火）（調査発表 2017年12月27日）
- 第27回調査実施・・・2018年2月2日（金）～2月7日（水）（調査発表 2018年2月27日）
- 第28回調査実施・・・2018年4月3日（火）～4月8日（日）（調査発表 2018年4月27日）
- 第29回調査実施・・・2018年6月4日（月）～6月10日（日）（調査発表 2018年6月29日）
- 第30回調査実施・・・2018年8月2日（木）～8月8日（水）（調査発表 2018年8月31日）
- 第31回調査実施・・・2018年10月2日（火）～10月8日（月）（調査発表 2018年10月30日）
- 第32回調査実施・・・2018年11月26日（月）～12月2日（日）（調査発表 2018年12月20日）
- 第33回調査実施・・・2019年1月25日（金）～1月31日（木）（調査発表 2019年2月25日）
- 第34回調査実施・・・2019年3月26日（火）～3月31日（日）（調査発表 2019年4月25日）
- 第35回調査実施・・・2019年6月7日（金）～6月10日（月）（調査発表 2019年6月27日）
- 第36回調査実施・・・2019年7月30日（火）～7月31日（水）（調査発表 2019年8月27日）
- 第37回調査実施・・・2019年9月26日（木）～10月1日（火）（調査発表 2019年10月30日）
- 第38回調査実施・・・2019年11月29日（金）～12月5日（木）（調査発表 2019年12月20日）
- 第39回調査実施・・・2020年1月31日（金）～2月4日（火）（調査発表 2020年2月26日）
- 第40回調査実施・・・2020年3月27日（金）～3月28日（土）（調査発表 2020年4月23日）
- 第41回調査実施・・・2020年5月29日（金）～5月31日（日）（調査発表 2020年6月24日）
- 第42回調査実施・・・2020年7月29日（水）～7月31日（金）（調査発表 2020年8月27日）
- 第43回調査実施・・・2020年9月26日（土）～9月28日（月）（調査発表 2020年10月29日）
- 第44回調査実施・・・2020年11月27日（金）～11月30日（月）（調査発表 2020年12月24日）

<「Pontaリサーチ」について>

共通ポイントサービス「Ponta」を運営する株式会社ロイヤリティ マーケティングが提供するリサーチサービス。「Pontaリサーチ」は、LMの有するPonta会員のうち「Pontaリサーチ」にご登録いただいているPontaリサーチ会員を対象に、自主調査や企業および団体などから依頼を受けたアンケートをご案内しています。またPontaリサーチ会員の皆様は、アンケートにご協力いただくことでPontaポイントをためることが可能です。「Pontaリサーチ」サイトURL：<https://www.loyalty.co.jp/ponta-research/>

<引用・転載の際のクレジット表記のお願い>

調査結果引用・転載の際は、“「Pontaリサーチ」調べ”とクレジットを記載していただけますようお願い申し上げます。

Pontaリサーチ

【共通ポイントサービス「Ponta（ポインタ）」とは】

1枚のポイントカードで様々な提携企業の共通ポイントを、ためる、つかうことのできる便利でおトクなサービスです。会員数9,964万人（2021年1月末日）を有する共通ポイントサービスで、提携企業136社（2021年2月1日）、日本全国約24万店（2020年5月1日）にて利用が可能です。

Ponta公式サイト「Ponta Web」：<http://www.ponta.jp/>

Ponta公式Twitter：<https://twitter.com/Ponta>

Ponta公式Facebook：<https://www.facebook.com/ponta.official>

（運営）株式会社ロイヤリティ マーケティング：<https://www.loyalty.co.jp/>